

はじめに

立命館大学人間科学研究所では 2005 年度から 5 年間にわたり、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープンリサーチセンター整備事業「臨床人間科学の構築」研究を展開しているが、その一環としてプロジェクト「関わりに難しさのある子どもへの援助研究」(研究代表：荒木穂積) がとりくまれている。本書は、同プロジェクトが中心となって開催した、2006 年 12 月 9 日のシンポジウム「高機能自閉症児およびアスペルガー症候群児の早期発見と早期対応」(主催：人間科学研究所) の報告書である。

シンポジウムは以下のようなスケジュールと内容ですすめられた。

午前の部では、基調講演 1 として「自閉症およびアスペルガー症候群の早期発見の研究動向と課題」と題して、神尾陽子・国立精神・神経センター精神保健研究所児童・思春期精神保健部部長、基調講演 2 として「自閉症およびアスペルガー症候群の早期対応の研究動向と課題」と題して伊藤良子・東京学芸大学教育実践研究支援センター生涯発達支援部教授からの最近の研究動向にふれたつつ基本的課題について問題提起していただいた。

午後の部では、「シンポジウムー早期対応と発達の可能性」と題して、加藤寿宏さん、中村隆一さん、谷晋二さん、および荒木穂積からそれぞれの専門的分野からの報告を受けた。指定討論として望月昭さん、石坂好樹さんからコメントをしていただいた。

報告者のみなさんには、忙しい中当日の報告に修筆を加えていただいた。全体として「高機能自閉症児およびアスペルガー症候群児の早期発見と早期対応」の現在の研究・実践の最前線の動向を伝える内容になっているのではないかと思う。

本報告書をもとにいろいろな場で活発な意見交換がおこなわれることを期待している。

2007 年 2 月 28 日

コーディネーター 荒木穂積